

## SAIS

ライシャワー・センターの所属する SAIS とは、ジョンズ・ホプキンス大学・高等国際問題研究所 (School of Advanced International Studies) の通称であり、日本からも政府・民間機関・学術機関から毎年多数の留学生が派遣されて、国際交流を含む多彩な研究活動に従事しています。大学院であると同時にシンクタンクでもある SAIS は、各国の大使館が並ぶワシントンのマサチューセッツ・アヴェニューに面し、世界の政策ネットワークの中心に位置しています。

## 北東アジア政治経済セミナー

日本、韓国、中国、ロシア、そしてアメリカを含む北太平洋の相互経済依存は、過去 10 年のあいだにいっそう深化しています。特に日本と朝鮮半島および中国は、安全保障問題からエネルギー資源問題にまで大きな問題を抱えつつ、その経済システムを収斂させており、比較政治に意義深い問題を提起しています。北東アジアの政治経済を扱う当セミナーでは、こうした問題をめぐり、学術上の議論を深めつつ、政策上の解決を探り、その発表の場を提供しています。

## アジア太平洋政策論文シリーズ

当センターは、政策決定における課題解決に貢献する目的から、各界の執筆者による政策分析の論文を刊行しています。主要なテーマは、朝鮮半島の核問題、北東アジアと中東関係、アジアのエネルギー問題、日本の経済改革の行方などです。



**The Edwin O. Reischauer Center for East Asian Studies**  
1619 Massachusetts Avenue, NW  
Washington, DC 20036  
Phone: 202-663-5815 Fax: 202-663-5799

## ライシャワー・センター 東アジア研究所

〈創立 20 周年〉



ライシャワー・センターは、1984 年にライシャワー家からの多大な協力を得て設立され、以後 20 年のあいだ、アジア・太平洋地域の研究を通じ日米の相互理解に大きく貢献してきました。設立から 1990 年まではエドウィン・O・ライシャワー

元駐日大使自身が名誉会長を務め、その後 1991 年から 1998 年までは夫人の松方ハル氏がその職を継いで、太平洋の架け橋となる日米の対話活動、学術・文化の相互理解を行う今日のセンターの基礎が築かれました。

## 〈主な活動と刊行物〉

- ライシャワー・フォーラム定期講演会
- 日米政策対話
- 北東アジア政治経済セミナー
- 国際会議
- アジア太平洋政策論文シリーズ刊行
- 日米関係年次報告刊行
- 客員研究員制度
- SAIS サマーインターン制度
- 奨学金制度

## **The Reischauer Center**

1619 Massachusetts Avenue, NW  
Washington, DC 20036

## 所長

ケント・E・カルダー (Kent E. Calder)



ハーバード大学政治学部でライシャワー教授の指導を受け、博士号取得。1980年の同大学日米関係プログラムの設立により初代事務局長となる。1983年から2003年までプリンストン大学ウッドロー・ウィルソン政治大学院で教鞭を執る。ワシントン国際問題研究所 (CSIS) 日本部長 (1989-1993) および、駐日米大使特別

補佐官 (1997-2001) を歴任。2003年より現職。

**所長の言葉：** — 「損なわれた対話」を超えて—

ライシャワー・センターは20年前の創立当時から、ライシャワー元駐日大使の意志を受けて、氏の指摘した日米の「損なわれた対話」を乗り越えるために、政策面、学術面からの貢献を続けてきました。大使の在任中に東京で特別補佐官を務めたジョージ・パッカード教授、大使館スポークスマンだったナサニエル・セイヤー教授等がこれまで中心的な役割を担ったのもその表れです。私自身もハーバード大学教授であったライシャワー氏の教えを受け、その後同大学で部下として勤務の機会を得た一人であり、本年からこのセンターの所長に就任したことを、身に余る光栄と感じています。

大使が40年前に指摘した「損なわれた対話」は、その後の日米双方の努力により好転してはおりますが、日米関係の将来にはまだ課題も多くあります。互いに対する誤った認識や、対話のタイミングのずれがしばしば太平洋地域の不安定要因となり、他の地域にも影響を及ぼしてきたことは指摘を待つまでもありません。

私は2003年9月に所長に就任以来、このセンターの目的にかなう活動として、ライシャワー・フォーラム講演シリーズ、日米政策対話、SAIS 北米アジア政治経済セミナーを開き、アジア太平洋政策論文シリーズの刊行を推進してまいりました。これからも、ライシャワー氏が目指した世界を受け継ぎ、太平洋関係に影を落とす日米の「損なわれた対話」を改善する努力を続けて行きたいと思っております。

## 国際会議

ライシャワー・センターは、国際政治・経済の動きを受け、時局に応じた政策面・学術面の課題を取り上げて国際会議を随時開催しています。東京の財務省財務総合政策研究所と共同で推進中の東アジア経済圏の地政学的リスクと将来の展望に関する国際会議もその一つです。

## 日米政策対話：協力強調

最近の日米両国の間では安全保障協力体制や相互経済依存関係の深化が見られる一方、政府外での多様な対話が不足し、今後の相互関係の方向付けについての議論に関しては停滞の感が否めません。ライシャワー・センターはこの点を重視し、下記の分野の問題を取り上げ、民間レベルも含む課題解決への提言を行っています。

- 安全保障
- エネルギー資源
- 教育
- 医療と政策
- 公共交通・高速輸送

## ライシャワー・フォーラム 特別講演シリーズ



ワシントンの中心部にある地の利を生かし、センターでは、日米関係の政策決定において主要な役割を担う政府、財界関係者、学者、文化人による特別講演シリーズを行っています。

2003年秋の第一回講演は黒田東彦総理特別補佐官 (元財務官) を講師に迎え、「日本の構造改革と景気回復」というテーマで行われました。

## 日米関係年次報告書

ライシャワー・センターでは、日米関係の多角的な問題を扱う年次報告書を刊行しています。日本国内の諸部門の長期見通しと国際的影響についてのデータを収集して分析を加え、アメリカのメディア等では見落とされがちな視点から検証するのがその特徴で、編纂に当たるのはSAISの大学院生です。この報告書は、日本語版と英語版があり、それぞれ日米の政府および議会関係者、シンクタンク、学術機関、民間組織などに送られています。

## SAIS 夏期インターン制度・ 日本語講座・奨学金制度

夏期インターン制度はSAISに留学している各国の大学院生に対し、日本でのインターン活動の機会を提供する制度です。センターでは、1984年に最初のインターン生を日本に派遣して以来、この制度を通じてこれまでに100人を超す学生を在日米企業などに派遣してきました。夏季休暇を利用した10週間のプログラムを通じて、学生は日本語の習得、技術の向上、日本への文化理解を深めてきました。また、センターは学生の日本語の習得にも力を入れており、学生に奨学金を支給して、SAISの内部で夏期日本語講座も開設しています。

さらに、当センターは上記の目的のため、創立以来20年にわたって、日本研究や太平洋地域の研究に従事する学生に奨学金も提供してきました。財源となる基金はジョージ・フレドリック・ジュイット財団奨学金、日立奨学金、ライシャワー奨学金、H. ウィリアム・タナカ奨学金、ソニー奨学金、トヨタ奨学金等、日米の財団からの助成によって維持運営され、学術活動に貢献しています。